

# おまんこ専門店

	トラック01
真桜	「いらっしやいませ♪ 癒しのコスプレおまんこ専門店『ヴァギナ』へようこそ♪」
真桜	「ご来店は初めてでしょうか？ それでは、当店の説明を私、受付嬢の真桜がさせていただきます♪」
真桜	「まず、当店は前払い制の風俗店になっておりまして、先にこちらのメニューからお好きなおまんこを指名していただきます」
真桜	「その後、もしご希望があればおまんこを彩るコスプレ衣装をお選びいただき、個室で好きなようにおまんこを味わうといった進行になります」
真桜	「では早速、こちらが当店で取り扱っているメスマンこの一覧になります」
真桜	「ふふ♪ いかがですか？ 当店は他の風俗店と違い、女性の顔ではなく女性のおまんこをプロフィール写真として掲載させていただいております」
真桜	「メニューには多種多様なおまんこが写っております、お客様がお気に入りのおまんこを選べるよう、各おまんこの詳細な情報も記載されております」

---

真桜

「例えばこちらのおまんこ。まだ使い込まれていないサーモンピンクのパイパンまんこになっておりまして、潮吹きの高距離は最長3メートル。クリのサイズは最大2センチ。おまんこから子宮到達までは2センチのザコザコおまんことなっております♪」

真桜

「ちよこつと子宮を突けばオホ声上げてイってしまふので、セックス初心者のお客様にはオススメの一品です♪」

真桜

「一方、そちらのおまんこはマン汁の分泌量が当店一のとろとろおまんこです」

真桜

「ただ、あまりにマン汁が多すぎるせいか、常日頃から愛液がたまり、マンカスだらけのくっさいビラビラまんこになってまして、少々人を選ぶメスとなっております」

真桜

「しかし世の中にはこのようなくっさいマンカスビラビラまんこを好まれるお客様も多いので意外と需要があるんですよ？ ふふふ♪」

真桜

「そ・し・て♪ お客様♪ 本日は運がいい事に、年に数回しか入荷しない超激レアおまんこである処女マンコが入りまして♪」

真桜

「こちら、つい先ほど当店のおまんこ研修を修了したばかりのぷにぷにパイパンロリまんこになります♪」

---

---

真桜

「激レアという事もあり、通常よりも値が張るのですが……いかがでしょう？　年齢が〇桁になったばかりの、無垢で綺麗なキツキツ処女まんこ♪この機会にご賞味されていきませんか？」

真桜

「おや♪ お気に入りのおまんこが決まったのですね♪　では、本日はどちらのおまんこでお楽しみになりますか？」

真桜

「はい♪　はい……はい……って、ふえ？　え？　あ、あの……すみません。もう一度おっしゃっていただけませんか？」

真桜

「今、私の名前が呼ばれた気がしましたので……あはは♪　聞き間違えてしまい申し訳ありませんでした♪」

真桜

「では改めて、どちらのおまんこに致しますか？」

真桜

「って、え？　えええ……？？」

---

トラック02

真桜 「あ、あのう……お客様？ 真桜です。準備が整いましたのでお部屋、入りますね？」

真桜 「お待たせしました……本日は数あるおまんこから私、真桜のおまんこを、ご指名いただき、誠にありがとうございます」

真桜 「って、あはは……たどたくて申し訳ありません。何分受付嬢としてしか仕事をしたことがありませんので……至らぬ点多いかと思いますが、ご容赦願えればと思います」

真桜 「それにしても……ふふ♪ まさか受付嬢のおまんこを指名するだなんてお客様も好きものですね♪」

真桜 「だって、私のおまんこはメニューに載ってないんですよ？ これでもしお客様好みのおまんこでなかったらどうするおつもりなのですか？」

真桜 「まあ！ ふふ♪ 私のおまんこならどれだけ臭くても愛せるだなんて♪ そんな事言われたのは初めてです♪」

真桜 「それに……これ♪ 追加料金を払ってこんな素敵なコスプレ衣装まで着させていただいて♪」

---

真桜 「これってチャイナドレスですよ？ 私、こんな  
素敵なドレスを着たのは初めてで……」

真桜 「ああ♪ 今からこんなスケベな衣装でおまんこを  
愛していただけのるんですね♪」

真桜 「ああ……私い……♪ すっごい興奮しちゃってえ  
♪ こゝこ♪ おまんこ♪ 濡れてきてるんです  
♪」

真桜 「実は、当店のキャストは、お客様が希望しな  
い限りはいつでもどこでもおまんこを出せるよ  
う、常にノーパンでいる事を義務付けられてまし  
て♪ 興奮しておまんこが濡れるとすぐメスの匂  
いをまき散らしちゃうんです♪」

真桜 「まあ、私は元々受付嬢ですけど……んん♪ 意外  
とキャストとしての才能もあったようで♪  
はあ、はあ♪ おまんこからトプトプスケベ汁が  
垂れて床を汚してるんですう♪」

真桜 「まだ触ってもいないのに、おまんこくばあって臭  
い花びら開いてえ♪ ああん♪ メスの香りでお  
部屋を満たしてしまいますう♪」

真桜 「ふふ♪ 今からお客様におまんこ犯されてグロマ  
ンにされるのが楽しみですう♪ はあ、はあ♪  
ん、はあ、はあ……♪」

---

---

真桜 「さあお客様♪ 今宵は最高に気持ちいいおまんこ  
ナイトにしましょうね♪」

真桜 「では早速……まずは私のおまんこをご覧になって  
いただきたいので、床に膝立ちしていただけます  
か？」

真桜 「はい、そうです♪ 目線がおまんこの高さになる  
ようにお座りください♪」

真桜 「じゃあいきますね〜♪ チャイナドレスの前掛け  
を……ぴら〜♪」

真桜 「あん♪ やあ♪ 見られちゃいましたあ♪ マン  
汁でべとべとのスケベおまんこお♪ んん♪ お  
客様の目の前にい♪ ああ♪ 臭いマンカスの香  
りを嗅いで貰ってますう♪」

真桜 「ふう〜♪ ふう〜♪ ん、どうでしょうか？ 私  
のおまんこ、変ではありませんか？」

真桜 「キャストとしてお見せするつもりはなかったの  
でおまんこの毛を整えておらず、マンコに溜まった  
垢がマンカスになってしまい、とっても汚いかも  
しませんか……」

真桜 「って、あら？ あらあらまああ♪ お客様った  
ら♪ おちんぽ……膨らんでおりますよ？」

---

---

真桜

「そんなに私の臭いおまんこに興味があるんですか？ ああ♪ 鼻を鳴らしながらおまんこに夢中のお客様♪ とっても可愛いですよ♪」

真桜

「はあ、ん、はあ……♪ お客様、どうでしょう？  
ここで一つご相談があるのですが……」

真桜

「もしよろしければ、本日は当店自慢のおまんこメニュー……おまんこフルコースをご賞味してみませんか？」

真桜

「はい♪ こちらキャストが気に入ったお客様にのみお伝えする裏メニューになっております♪」

真桜

「あ、追加料金等は発生しませんので安心してください♪ これは私をご指名してくれたお客様にお返ししたいという、感謝の気持ちですから♪」

真桜

「どう、ですか？ 私のおまんこフルコース、味わってくださいませんか？」

真桜

「ああ♪ はい♪ ご注文ありがとうございます♪  
精一杯、おまんこご奉仕させていただきますね♪」

真桜

「それではこのまま……どうかおまんこスープである、私のマン汁をご賞味してくださいませ♪」

真桜

「ふふ♪ もちろん、器に注いだりといった無料なマネは致しません♪」

---



真桜

「直接私のおまんこにむしゃぶりついて、子宮の奥からおまんこスープを……くっさいマンコプールで何時間も煮込まれた雌のマン汁を♪ 満足いくまでちゅうちゅう吸ってください♪」

真桜

「さあ♪ もっと顔をおまんこに近づけて……はい♪ 漏らしたてホカホカのおまんこスープ、どうぞ♪」

真桜

「あ、ひゃん♪ あ、ああ♪ お客様のお口が、ん♪ おまんこに来ましたあ♪ ん、ん♪ はいい♪ そのままあ♪ ん♪ れろれろしてください♪」

真桜

「あ、ああん♪ やあ♪ お客様あ？ どうですかあ♪ 真桜のおまんこスープう♪ 美味しいですか？」

真桜

「ん、きゃん♪ ふふ♪ んん♪ お客様ったらあ♪ おまんこに夢中でえ♪ あ♪ 聞こえてないご様子……ん、あん♪」

真桜

「あ、あああ♪ い、いいですう♪ はいい♪ 絶え間なく零れるおまんこスープを♪ んん♪ じゅるじゅるってえ♪ 吸ってくださいい♪ はあ、はあ……♪ ん、あ、や、ああん♪」

真桜

「はあ、はあ♪ んん♪ どうぞお♪ マン汁スー  
プの付け合わせに♪ 白く固まったマンカスも  
どうぞ♪」

---

真桜 「臭いマン汁とマンカスのセットメニュー♪ご賞味くださいませ♪」

真桜 「ん、んん！ あ、あ、ああ……あ、ああん♪  
やあ……あう……う、うう……あ、ひや  
んっ！？」

真桜 「はあ、はあ♪ やあ♪ お客様あ♪ そこは、ん  
ん♪ そこはダメですう♪ だってえ♪ そこク  
リい♪ クリトリスですからあ♪ んん♪ ひや  
うん！」

真桜 「んん♪ ああ♪ やあ♪ らめれすよお♪ クリ  
からはあ♪ おまんこスープ出ませんからあ♪  
ん、んん♪ マン汁の穴は♪ もっと下です  
♪ んん♪ あ、ああん♪ やあ♪」

真桜 「ん、や♪ んあ、あ、あううう♪ んあ♪ あ、  
あ、あ、あああ♪ んん♪ おまんこお♪  
き、気持ちいい♪ あああ♪ おまんこお♪ お  
まんこおまんこお♪」

真桜 「ああん♪ お客様あ……♪ どうかあ……おまん  
この周りに♪ 肉厚のビラビラもお♪ 鳥肌が  
たった土手肉も♪ お口でハムハム味わってく  
ださいい♪」

---

真桜

「ん、んふう……♪ あ、ああ♪ そうですね♪  
んん♪ はいいい♪ そこお♪ はあ、はあ♪ オ  
ナニーすぎて黒ずんだ下品なビラビラ♪ イ  
キすぎてびろ～んて伸びた臭いビラビラ♪  
もっと引っ張ってくださいい♪」

真桜

「ふう、ふう、ふう♪ おお♪ お、おお  
♪ んふう♪ やっ、きやん♪ あ、あ、ああ  
♪ んおお♪ お、お、おお♪ おっ  
ほおお……♪ んふう♪ はあ、あああ……♪」

真桜

「ふう、ふう♪ んん♪ お、おお♪ おま  
んこお♪ やあ♪ ら、らめえ♪ 異性に弄られ  
るの初めてでえ♪ んん♪ あ、ああん♪  
やっ！ ダ、ダメえ♪ こんな早くう、んん♪  
おまんこ痙攣しちゃってえ♪」

真桜

「はあ、はあ、ああ♪ やっ、あ、あうう……♪  
これえ♪ オナニーなんか比じゃない……お客様  
におまんこ味わってもらうの気持ちよすぎれすう  
……♪」

真桜

「はあ、はあ、んう……あうう……♪ お、お客  
様あ♪ も、申し訳ありません！ お、おまん  
こお♪ もう、んん♪ イっちゃいますうう♪  
おまんこの穴からあ♪ 特製スープう♪ 塩味強  
めのおしっこ汁出ちゃいますうう♪」

---

真桜

「あ、あああ♪ やあ♪ おまんこダメええ♪ んん♪ やあ♪ あ、あ、あ、あああ♪ クリダメれすう♪ おまんこお♪ あ、あ、ああ♪ ああああ♪」

真桜

「んやあ♪ も、もうイキますう♪ あ、あ、あ、ああ♪ イきゅ♪ んん♪ イきましゅうう♪ おまんこイキましゅうう！」

真桜

「んん！ イクうつ！ もうイぎゅう！ ああ！ あ、あ、ああ！ イクイクイクイクうう！！ イっきゅうううううう！！」

真桜

「んっ！ きゅうううううう……！！？？」

真桜

「んああ……♪ あ、ああ♪ はひい♪ あ、あ、ああ……♪ お、おまんこお♪ ん！ やあ♪ おまんこイきゅう♪ イってましゅうう♪」

真桜

「少し舐められただけなのに……♪ んふう♪ はひい……♪ だらしくおまんこからあ……や……ああん♪ お漏らしい♪ おまんこお漏らし気持ちいいれしゅう……♪」

真桜

「はあ、はあ……♪ お客様♪ んん♪ もっと♪ もっとしゃぶってくださいいい♪」

---

真桜

「んん♪ すぐいっておしっこ漏らしちゃう雑魚雑魚まんこにっ♪ んん♪ お客様のぺろぺろ追撃い♪ ああん♪ もっとくださいい♪」

真桜

「ん♪ はあ、はふう♪ 私もお♪ んん♪ おまんこからマン汁お替り出しますからあ♪ はい♪ 臭いマンコからおまんこスープう♪ おしっこ穴から潮味スープう♪ んん♪ あっくんってしてくださいい♪」

真桜

「はあ、はあ……♪ んん♪ さあお客様あ♪ あっくん♪ おまんこスープう♪ あっくん♪」

真桜

「ああ♪ お客様あ♪ んん♪ まるで雛鳥のようにお口を開いて♪ やあん♪ とっても可愛らしくて素敵ですう♪」

真桜

「はあ、はあ♪ んん♪ お客様あ♪ もっとおまんこのおまんこの奥まで舌を伸ばしてくださいい♪」

真桜

「お客様のザラザラした舌でえ♪ ちっちゃいおまんこ穴捲ってマン汁吸い出してえ♪ 下品に漏らしちゃう雑魚マンコにお仕置きしてくださいい♪」

真桜

「はあ、はあ♪ あああ♪ んん♪ じゆるじゆるう♪ おまんこじゆるじゆるイイレす♪ ああ♪ あ、ああ♪ イイレすう♪」

---

真桜

「こんなにおまんこ吸われるのが気持ちいいなんてえ♪ んああ♪ あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、ああ♪」

真桜

「や、やあ♪ ま、またイキましゅっ！ ん、ん！ ああ♪ またイキましゅうう♪ おまんこイキましゅうう♪」

真桜

「あ、あ、あ、ああ♪ イ、きゅう！ おまんこイキュ！ おしっこ出ましゅう♪ はあ、ん、ああ♪ おお♪ イクイクイクイクうう！ イっきゅううううう！！」

真桜

「ん、きゅうううううう……！！」

真桜

「んあああ♪ やっ♪ あ、あ、ああ……♪ やあ……ダメえ……♪ おまんこスープう♪ お、おお♪ おしっこ漏らし止まらないれしゅう……♪」

真桜

「ん、ん！ やあ！ あ、あ、あああ♪ やああ♪ は、はひゅうううう♪」

真桜

「さ、最高れしゅうう♪ お客様の舌使いい♪ んん♪ れろれろってえ♪ ああん♪ お客様の「く」く喉を鳴らす音もお♪ 聞こえてきますう♪」

---

---

真桜

「あ、ああ♪ は、はひゅうう♪ ん、ん♪ はいい♪ どうぞお♪ まだおまんこから溢れてきますから♪ ゆっくり飲んでえ……♪ んん♪ はあ、はあ♪ 味わってください♪」

真桜

「ほうらあ♪ おまんこくくく♪ おまんこくくくくく♪ おまんこペロペロ♪ おまんこペロペロくくく♪」

真桜

「ん、ん♪ はあ、はあ、はあ、はあくく♪ ん、ん♪ そろそろお……おまんこスープはこのくらいに、あん♪ しておきましようか♪」

真桜

「お客様？ 一旦お口から離しますねえ♪ ん、しよ……つとお♪」

真桜

「ふううくく♪ ふふ♪ お客様ったら、口元がマシ汁とおしっこでベトベトですね♪」

真桜

「そんな時は……ん、ありました♪ はいお客様♪ こちらおしぼりになりますので是非お使いください♪」

真桜

「それにしても、まさかあんなに激しくおまんこを求めて下さるとは思いませんでした♪ 私のおまんこ、本当に気に入ってくださいだったのでね♪」

真桜

「そこまで気に入られてしまったては、私も、もつと、もくくつと、サービスしてあげたくなっちゃいます♪」

---

---

真桜

---

「な・の・で♪ お顔を吹き終わったらすぐ♪  
おまんこを使った特別なご奉仕♪ させていただ  
きますね♪」

---



	トラック03
真桜	「お客様♪ お次は大人気メニューである、おまんこを贅沢に使った耳舐めご奉仕になります♪」
真桜	「まずは私がベッド上で㊦字開脚して、おまんこを、くぱあ〜♪っとしますので、そのまま」覧なってください♪」
真桜	「はい♪ ではおまんこを左右に〜♪ くぱあ〜♪」
真桜	「ふふ♪ 先ほどぺろぺろしていただいた事もあり、すっかり赤く、テカテカと輝いて……♪ ああん♪ 自分で言うのもあれですが、とっても厭らしいおまんこですね♪」
真桜	「それに……すん、すんすん♪ すうう〜、はあ〜♪ はふうう〜♪ おまんこから蒸れた臭い匂いが広がって♪ ああ♪ メスのフェロモンがお客様のおちんぽを欲しがって媚びているのが分かります♪」
真桜	「ああ〜♪ とっても臭くて下品な、メ・ス・まん・こ♪」
真桜	「お客様♪ どうか、このままおまんこを枕にする感じで横になってください♪」

---

真桜 「はいそうです♪ おまんこ枕とはいわば膝枕のおまんこ版♪」

真桜 「お客様のお耳をぴったりおまんこにくっつけておまんこの鼓動を直に感じていただき、もう一方のお耳を私が舐める……それがおまんこ耳舐めご奉仕なんです♪」

真桜 「さあ遠慮なさらず、思いっきりおまんこを枕にしてください♪」

真桜 「あん♪ ふふ♪ お客様、いかがですか？ 私の  
おまんこの寝心地は♪ あったかいですか？  
いやらしいですか？」

真桜 「そ・れ・と・も♪」

真桜 「マンカスがお耳にくっついて♪ 臭い香りがお  
耳にこびり付いて♪ 気持ち悪いですか？」

真桜 「今も、んん♪ 私の呼吸に合わせておまんこが縮  
んだりい、くぱあって広がったりい♪」

真桜 「おまんこの鼓動がお耳に伝わって♪ 心なしか  
安心感といますか、何か懐かしい感じがしませ  
んか？」

真桜 「人間、生まれる前は皆誰しもおまんこの中、子宮  
で長い時間眠っていましたからね♪」

---

真桜

「きっと、こうやって直接お耳でおまんこを感じる  
と、子宮で眠っていた時の事を思い出して安心し  
ちゃうんだと思います♪」

真桜

「さあお客様……そのままゆっくりと目を閉じて  
……おまんこに身を委ねてください……ゆ  
っくり深呼吸して……リラックスして……  
……」

真桜

「ん……ちゅ♪ ちゅ♪ はぶっ、ちゅ♪ ちゅ、  
んちゅ……♪ ちゅ♪ ちゅ……ちゅ♪」

真桜

「ふふ♪ お耳おいしい♪ ん……ちゅ♪ ちゅ、  
ちゅ♪ いいですよ♪ そのまま♪ んちゅ  
♪ ちゅ、ちゅ……♪ ちゅ、ちゅ、ちゅ、ちゅ  
♪」

真桜

「私のおまんことお口に挟まれながら♪ ちゅ♪  
れろれろ♪ ふふ♪ いっぱい癒されてくださ  
いね♪ ちゅ、ちゅうう♪ ちゅぶっ♪ ん  
ちゅ、れろ、ちゅ、ちゅうう♪ ちゅばあ♪  
はあ、はあ♪」

真桜

「あん♪ やあ♪ ダメですよ♪ 耳キスされた  
からってえ♪ んん♪ そんな体震わせたらあ♪  
ああん♪ やあ♪ お客様の髪がおまんこに擦  
れてえ♪ またくっさいマン汁トプトプ出ちゃい  
ますう♪」

「ふふ♪ んゝちゅ♪ ちゅ、ちゅう♪ ちゅ、ちゅぷっ♪ んゝちゅ♪ ちゅ……ちゅ♪」

真桜

「はあ、はあ♪ んん♪ あああ♪ 私もお♪  
もっとお客様のお耳の奥う♪ 欲しくなっちゃい  
ましたあ♪」

真桜

「ですから♪ んんちゅ♪ キスだけじゃな  
くって……お耳の奥♪ ペろペろしますね♪」

真桜

「はゝゝむ♪　んちゅ♪　じゆるる♪　ちゅぷっ！  
 んゝちゅ♪　れゝゝろれろれろれろ♪　んちゅ  
 ♪　ちゅ♪　れろれろ♪　れゝゝ♪　れろれろれ  
 ろれろ♪　れゝゝゝゝゝ♪　れりゅ♪　ちゅ♪  
 ちゅ、ちゅ♪」

真桜

「んふふ♪ お客様あ♪ ふううふふふふふふふふ♪  
ふつ、ふつ、ふううううふふふふふふ♪ どうですか  
ふ？ 楽しんでただけてますか？ れふふふ♪  
れろろろ♪ んちゅ♪ じゆるる♪ ん、ちゅ  
ふふ♪ ちゅ、ちゅ♪」

真桜

「私の涎を……んゝれゝろれろ♪　んふ♪　お耳  
から流し込んで差し上げます♪　んゝちゆ♪  
れゝゝゝ♪　れろれろれろれろ♪　れゝゝろれろ  
れろ♪　れりゆ♪　じゅぷぷっ！　んちゆ♪  
ちゆゝゝ♪　ちゅぱあ♪」

---

真桜

「んん♪ お客様のお耳、臭い耳カスが沢山たまつてゝ……ああ♪ なんて臭いお耳なんでしょう♪」

真桜

「舌の上に散らばった耳カスが臭すぎてゝ♪ お口が激臭でピリピリ痺れちゃいますう♪」

真桜

「ああゝむ♪ んん♪ ごく……ごく……ごく……ごく……んん♪ ぷはあ♪ はあ、はあ♪ んふふふゝ♪ ああ♪ 叔父様の耳カス美味しいゝ♪」

真桜

「はあ、はあ♪ んん、お客様ゝ♪ もっとお♪ もっとこの黄色くてくっさゝいお耳のカス食べさせてくださいい♪ んん♪ あゝゝ……む♪」

真桜

「はあ、はあ♪ やあん♪ 堪らないですうゝ♪ んゝちゅ♪ れゝゝ♪ はぷっ！ れろれろれろれろ♪ れゝゝ♪ れるれるろ♪ んん♪ ちゅ、ちゅ、ちゅ、ちゅうゝゝ♪ ぷはあ♪ はあ、はあ♪」

真桜

「あん♪ ふふ♪ お耳真っ赤にして恥ずかしがるお客様、とっても可愛いです♪」

真桜

「それにゝ♪ んゝちゅ♪ お客様のそゝこ♪ おちんぽもすっかり勃起なされてゝ♪」

---

---

真桜

「ああん♪ 必死に勃起を我慢しようとするお客様のお顔♪ 可愛くて可愛くてえ♪ はあ♪ お客様あ♪ んん♪ どうか仰向けに、私と目が合うようにお顔を動かしてくださいませえ♪」

真桜

「お客様♪ んん♪ ちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪  
ちゅうううう♪ ちゅ♪ はむっ♪ ちゅ……  
ちゅ♪ ちゅぷっ、んん♪ ちゅ♪」

真桜

「はふう♪ すみません♪ 私、我慢できずにキスしちゃいました♪」

真桜

「はあうう♪ キスがこんなに甘いなんて……♪  
はふうう♪ んん♪ ちゅ♪ ふふ♪ おまんこが喜んでお漏らしてますう♪」

真桜

「って、ふえ？ あ、あはは……そうです。実は私、キスするの初めてで……でも昔から憧れだけはあったので、是非お客様に私のファーストキスをあげたい……そう思ったらもうキスしちゃってましたあ♪」

真桜

「あのう……お客様はお嫌でしたか？ 私なんかのファーストキス、いいませんでしたか？」

真桜

「あん♪ もっとして欲しいだなんてえ♪ そんなに可愛くおねだりされては、私も、もっともっつと、サービスしてあげたくなってしまいますう♪」

---

---

真桜 「お客様♪ いっぱいキスして私の涎、飲ませてあげますね♪」

真桜 「んっちゅ♪ れりゅ♪ んん♪ ちゅ♪ は  
ぷっ……ちゅ♪ れろれろ……♪ んっちゅ♪  
ちゅ、れっっ♪ れりゅ♪ ちゅ、ちゅ、  
ちゅうっっ♪」

真桜 「んぷっ♪ じゅる♪ んちゅ♪ れっろれろ  
♪ んちゅ♪ じゅるる♪ んっちゅ♪ ちゅ、  
ちゅ♪ れろ♪ んちゅ♪ じゅる♪ んちゅ♪  
ちゅぷぷっ！ ちゅ♪ ん、ちゅ……ちゅ♪」

真桜 「はあ、んちゅ♪ ちゅ、ちゅう♪ はふう♪ ん  
ん♪ お客様の涎と私の涎が混じってえ♪ 涎の  
橋が私達を繋げてくれてますう♪ はあっ♪  
これがベロキスっ♪ 恋人同士のラブラブキス  
なのですねっ♪」

真桜 「って、申し訳ありません！ キャストである私な  
んかがお客様の恋人だなんておこがましい事を  
言ってしまうって……」

真桜 「ああ……本当に申し訳ありません……お詫びにな  
るか分かりませんが、反対のお耳もいっぱい気持  
ちよくしてあげますので、また私のおまんこを枕  
にしてくださいませ」

---

---

真桜

「ふうふう〜♪ ふふ♪ こちらも沢山耳カス  
がたまつて臭い香りがします♪ ふふ♪ 安心し  
てください♪ 私が全部舐めとってさしあげます  
♪」

真桜

「は〜む♪」

真桜

「んん♪ お客様あ♪ もつろお♪ もつろ私の舌  
を感じてくだひゃい〜♪」

真桜

「んふふ♪ くっさい耳カスまた取れましたね〜  
♪」

真桜

「今度は〜……お口の中で涎と混ぜ混ぜするみたい  
に〜……ん〜、くちゆくちゆくちゆくちゆくちゆ  
くちゆくちゆくちゆ……ん、ごく……ごく……ごく  
く……ぷはあ♪ はあ、はあ……♪」

真桜

「ああ♪ 涎と混ざった臭い耳カスう♪ ねばあ  
〜っとして喉に絡みついて〜♪」

真桜

「んん♪ やあん♪ こ〜こ♪ 喉の奥引っかつ  
てますう♪」

真桜

「はあ、はあ♪ お客様あ♪ お耳で熟成された  
くっさ〜い耳カスう♪ もっと食べさせてくださ  
い〜♪」

---



真桜

「お客様あ♪ そんなにおまんこに体重を預けられるとお♪ ああん♪ 子宮が程よく圧迫されてえ♪ はふう♪ とっても気持ちいいです♪」

真桜

「んああ♪ もっとお♪ もっと頭をおまんこに押し付けてくださいい♪ おまんこでお客様の事感じさせてくださいい♪」

真桜

「んん♪ おまんこお♪ おまんこひくひくうう♪ 止まんにやいい♪ んふう♪ んちゅ♪ じゅるる♪ じゅるるるる♪ んうう……ちゅ♪」

真桜

「んううちゅ♪ れううう♪ れろろろ♪ んちゅ♪ おちんぽおしゅきい♪ んちゅ♪ れううう♪ れろろろろろお♪ んん♪ ちゅ、ちゅうううう♪ ちゅ♪」

真桜

「恥ずかしがらないくださいい♪ んうう♪ れろろろろろろ♪ れろろろろろろお♪ はあ♪ んううちゅ♪ れろろろろろお♪」

真桜

「ずうううつとお♪ お耳い♪ んううちゅ♪ ちゅ、れろろろろろお♪ れうう♪ れろろろお♪ んん♪ 舐めてあげますからねえ♪」

真桜

「はむ♪ ちゅ♪ ちゅ……れろ、ちゅ♪ れううろろろろろろろお……♪ じゅるる♪ ん、ちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪」

真桜

「て、あら♪ んゝちゆ♪ そんな体もぞざれてえ♪ んゝれるれるるる♪ もどかしいんですかあ？ ちゆ♪ れるれろろろお♪ んゝれるれるるるお♪」

真桜

「れゝれろろろろろお♪ んちゆうゝ♪ じゆるる♪ んゝれゝろろろろろろ♪ れゝちゆぷちゆぷっ！ んん♪ れろろろお♪ れゝろろろろろお♪」

真桜

「おちんぽお♪ おちんぽおつきするお客様あ♪ 可愛くてえ♪ んゝれろろろろろろろろろろお♪ ちゆ♪ ちゆ、ちゆゝゝゝ♪ れろろお♪ 大好きですう♪ お客様のお姿あ♪ もっとお♪ 好きになつてえ♪」

真桜

「れゝゝ♪ れるれるるるゝゝ♪ んちゆ♪ れろろろろろろお♪ はぷっ♪ んゝちゆ♪ ちゆ、ちゆうゝゝゝ♪」

真桜

「んゝちゆ♪ ちゆ、れろろろ♪ れゝゝゝ♪ れろろろお♪ ふふ♪ お客様あ♪ んゝちゆ♪ もうおちんぽ我慢できなくなっちゃいましたか？」

真桜

「ふふ♪ いいですよお♪ んゝちゆ♪ ちゆ、ちゆう♪ れゝれろろろろろろお♪ れろろろ……ん、ちゆ♪」

---

真桜

「はふう♪ では、おまんこ耳舐め枕はこのくらいにしてえ……♪」

真桜

「次はお客様の勃起おちんぽお♪ たろっつぷり癒してえ♪ 気持ちよろくしてさしあげますね♪」

トラック04

真桜

「さあお客様♪ お次は私の口まんこをご主人様のおちんぽで味わっていただきます……って、あ、あら？ お客様？」

真桜

「え？ 喉が渴いた、ですか？ まあ、それは大変です！ 脱水症状になってしまったらおまんこご奉仕どころではありませんもんね！」

真桜

「すぐ傍のテーブルにミルクティーがありますので是非お飲みください！」

真桜

「えーっと……あ、これです……！ これこれ♪」

真桜

「はい、市販のペットボトルに入ったミルクティーになります。どうぞこちらを……」

真桜

「あ、でも……どうせなら……」

真桜

「あのう……お客様？ このままペットボトルでお渡ししても良いのですが、せっかくおまんこ専門店にいらしたのですし、当店一押しプレイ……おまんこミルクティーを味わっていきませんか？」

真桜

「はい♪ こちらウチの名物メニューでして……」

真桜

「こうやって……おまんこくぱあーって広げながら、ペットボトルの先を中に入れてえ……おまんこにミルクティーを注ぐと……」

---

真桜 「ほくら、お客様♪ おまんこにい、ん♪ ミルク  
ティーを……とぶとぶ♪ とぶとぶう♪」

---

真桜 「ん、やあん♪ 興奮して火照った私のおまんこ、  
ミルクティーで冷やされて……んん♪ はあ、  
はあ……もう少し待っててくださいね。あと少し  
でおまんこに入りきりますから♪ とぶとぶ♪  
とぶとぶう♪」

---

真桜 「ん、はあい♪ お待たせいたしました♪ こちら  
真桜特製のおまんこミルクティーになります♪  
テーブル上にストローがあるのでおまんこに突き  
入れてください♪」

---

真桜 「つて、あん♪ お、お客様あ♪ そこはおしっこ  
の穴ですよお……もう……♪ おまんこのあゝな  
ゝはゝ……こっちです♪」

---

真桜 「はい♪ ひくひくした穴……子宮に続くおまんこ  
穴に、ストローを……あ、ああ、や、き、きて…  
…んあ♪ あ、あああん♪」

---

真桜 「はあ、はあ……す、すみませんお客様。おちんぽ  
を入れられた訳でもないのにはしたない声を上げ  
てしまつて」

---

真桜 「つて、やあん♪ そんな奥にストロー入れないで  
ください……そこはまだ処女膜がありますので  
……」

---

---

真桜

「ん、あ、ひゃんっ!? あ、やあ♪ はあ、んん♪ お客様あ♪ 処女膜ツンツンして遊んじゃダメですう♪」

真桜

「お楽しみは最後のメインディッシュにとつとかな  
いとですから♪ 今は我慢してくださいね?」

真桜

「ふふ♪ はい♪ 我慢できて偉い偉いです♪ そ  
れでは、今は私のエッチなおまんこジュース♪  
吸って楽しんでください♪」

真桜

「ん、はういお客様♪ ぐくく♪ ぐくくう♪  
ん、はあ、はあ……ふふふ♪ 喉を鳴らしなが  
ら無我夢中にお飲みになって♪ ああ♪ 良い飲  
みっぷりですう♪」

真桜

「慌てないでいいですよ? おまんこは逃げません  
から♪ ゆっくり、マン汁が混じった真桜特製お  
まんこミルクティー♪ 沢山味わってください  
♪」

真桜

「はあ、はあ、ん、はあ、はあ……んあ♪ や、は  
ふう……♪ ん、ああん♪ やあ♪ おまんこの  
中、どんどん吸われてますう♪」

真桜

「ん、あ、ひゃん♪ あ、ああ♪ んん♪ はあ、  
はあ……お客様♪ ん、はあ♪ おまんこちゅ  
うちゅ♪ おまんこちゅうちゅ♪」

---

真桜

「ささ♪ 後少しですよ？ はい、おまんこちゅ  
ちゅ♪ おまんこちゅちゅ♪ 愛液も一  
緒に、ちゅちゅ♪ おまんこちゅちゅ  
♪」

真桜

「あらら♪ ふふ♪ 全部飲み終わっちゃいました  
ね♪ いかがでしたか？ 私のおまんこミルクテ  
ィーは？ おいしかったですか？」

真桜

「くっさいマン汁が甘〜いミルクティーと混ぜって  
……とってもおいしかった……と……はうう♪  
そ、そんな風に言われては、ちょ、ちよっと照  
れてしまいますね♪」

真桜

「私自身、こういった事をするのは初めてでした  
し、おまんこの味見もしておりますでしたの  
で、少し……いえ、かなり心配ではあったのです  
が……ふふ♪ お客様に気に入っていただけて嬉  
しいです♪」

真桜

「嬉しくて嬉しくて……お客様にもっと喜んで欲し  
い……もっと私の全てを味わって、弄んで、楽し  
んで欲しい」

真桜

「そう……お口も、胸も、脇も、おへそも、太も  
も、おまんこも♪ 今の私はぜ〜んぶお客様だけ  
のものですから♪」

真桜

「だから、このまま私の、厭らしくてエッチなおま  
んこご奉仕、全部堪能して頂きますね♪」

トラック05

真桜 「喉も潤した事ですし、次は私のくっさういお口マ  
ンコをお楽しみください♪」

真桜 「ほくら♪ お客様？ 見てください、私のお・  
く・ち♪ やわらかうい唇を開けると……はあ  
ううう♪ ふふ♪ 見えましたか？ 涎塗れの舌  
に、奥で震える喉チンコ♪」

真桜 「今からここにお客様のちんぽを入れるんです♪  
ぷるぷるの唇を抜けて、ザラザラしたくっさい涎  
塗れの舌でおちんぽ擦って、最後は亀頭で喉チン  
コを震わせて、奥にゴール♪」

真桜 「この一連の動作を繰り返して、お口マンコを堪能  
して貰います♪」

真桜 「勿論、楽しみ方はお客様の自由自在です♪ ゆっ  
くり長く堪能したければ口の浅いところで亀頭を  
コスコスしたり、激しく口マンコ全体を堪能した  
ければ、私の頭を掴んでオナホのようにガンガン  
突いてください♪」

真桜 「私はどんな激しいプレイでも拒否しませんから♪  
はいそうです♪ NG無しのなんでもあります  
よ？」



---

真桜

「過去には」か月洗わなかった、おしつことチンカス塗れのくっさいちんぽを啜えさせられ吐き散らかしたキャストもいますしね♪」

真桜

「まあ最終的に、その子はくっさいチンカスちんぽの虜になり、今では不潔なおちんぽ専用肉便器として今も当店の便器に縛り付けられてますけど……」

真桜

「って、すみません。話が逸れてしまいましたね。とにかく、私のお口マンコでいっぱいお客様のおちんぽ気持ちよくしてさしあげますので、ズボン、失礼しますね♪」

真桜

「ん、わあ♪ お客様ってばおちんぽとっても大きいですね♪ はあ〜♪ ああん♪ お客様の勃起おちんぽお♪」

真桜

「今すぐおまんこを犯したがって♪ ふふ♪ とっても凶悪おちんぽですね♪」

真桜

「でも〜♪ チンポの先は皮に隠れてて〜♪ ああん♪ 見た目に反して照れ屋なお・ち・ん・ぽ♪ はあ〜♪ お客様のおちんぽ可愛い〜♪」

真桜

「今皮から出してあげますからね？ ん、こーやって……唇でチン皮を挟んで〜」

---

---

真桜

「ん、んんゝゝ♪ んむッ！ ん、んゝゝん♪ 反対の皮も……んむッ！ ん、んんゝゝ♪ んっ！」

真桜

「ぷはあ♪ はあ、はあ♪ ああ♪ 先っぽ出ましたあ♪ 可愛いピンク色のおちんぽお♪ やっぱり可愛いですう♪」

真桜

「それにゝ♪ チン皮の中でたまった精液が固まってえ♪ お客様も見えますか？ こゝれ♪ 白くてくっさい塊♪」

真桜

「はい、そうです♪ お客様の……チ・ン・カ・ス・です♪ ああんもうお客様ったら♪ もしかして今日はお風呂に入って来なかったんですか？」

真桜

「こゝろなくっさいチンカスをため込んでお店の女の子に舐めさせようとするなんてえ♪ とんでもない変態ですね♪」

真桜

「あ、いえいえ！ 嫌なんてことはないですよ？ チンカスって苦手な人が多いって聞きますけど、この独特の臭みと、熟成されたチーズのような濃厚な味わいは、女の子を一匹のメスにするこの世でただ一つのご馳走と言う人もいるんです♪」

---

真桜

「男の人のちんぽでしか作れない、とってもレアなチンカスちんぽ……はあん♪ 私、こんなチンカス塗れのくさくさちんぽをしゃぶるのは初めてなので、興奮が止まりません♪ まあ普通のおちんぽもしゃぶったことは無いんですけど♪」

真桜

「はあ、はあ♪ んああ♪ チンカスう♪ チンカスちんぽお♪ ちんぽお♪ とっても美味しそうで香ばしいチンカスおちんぽお♪」

真桜

「お客様あ？ いいですかあ？ ロマンコでチンカスちんぽにご奉仕してもいいですか？」

真桜

「はいい♪ ありがとうございますう♪ それでは……お客様のチンカスちんぽ、私の口で綺麗にして差し上げます♪」

真桜

「ん……ちゅ♪ れるるる♪ んちゅ♪  
じゅるる♪ れるるるるるるお♪ れるるる♪ んちゅ♪  
ちゅうううううう♪ ちゅぶっ♪  
んちゅ♪ れるるるお♪ れるるるるるるるるるる♪」

真桜

「んぶっ！ ちゅぶっ！ れるるる♪ れるるる♪ んちゅ♪  
ちゅ……ちゅ♪ ふふ♪ おちんぽピクピクして♪ 気持ちいいんですね？」

「んちゅ♪ れゝゝろれろれろ♪ れろゝゝ♪ れ  
ろれろれろれろゝゝ♪ んちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪  
ちゅぷっ！ んちゅ♪ はぷっ！ んぷっ！  
じゅる♪ れろれろ♪ れろゝゝ♪ んちゅ♪  
ちゅ、ちゅ♪」

「ぷはあ♪ はあ、んん♪ んんちゅ♪ おちんぽお♪ とつてもおいしくて、臭くって♪ お客様、見てください♪ 私の舌♪」

「ん、れ〜〜〜♪ んむ♪ 見えましたか？ は  
い♪ 私の舌にお客様の白いチンカスがいっぱい  
乗って、苦くてエグイ味が伝わってくるんです  
♪」

「このチンカスを……んちゅ♪　ぐちゅぐちゅぐちゅぐちゅ♪　んん……ぐく、ぐく、ぐく、ぐく♪　ぷはあ♪　はあ、はあ♪　んああ♪　チンカスを涎と混ぜ込んで飲むとお♪　とってもおいしくてえ♪　発情が抑えきれません♪」

「はあ、はあ♪ お客様あ♪ もっとチンカス舐めさせてくださいいい♪」

「んゝゝ♪ れゝゝゝ♪ れろゝゝ♪ れろれろ  
れろれろゝゝ♪ んちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪ ちゅ  
ぷ♪ れろれろ♪ れゝゝろれろれろ♪ れろれ  
ろれろれろお♪」

---

真桜

「んゝちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪ れろれろお♪ チン  
カスう♪ くっさいチンカスう♪ もっとお♪  
ちんぽお♪ ちゅぷっ♪ んちゅ♪ れろれろお  
♪ れろれろれろれろお♪」

---

真桜

「んゝちゅ♪ れゝゝろれろれろ♪ はぷっ！  
んちゅ♪ ちゅ、ちゅうゝゝ♪ ちゅ♪ おちん  
ぽの段差をゝ♪ 舐め回すようにい♪ ん、ちゅ  
ゝゝ♪ れろれろお♪ れゝゝろれろれろれろ  
ろお♪ れゝゝろれろ♪」

---

真桜

「はぷっ！ んちゅ♪ ちゅ、ちゅうゝゝ♪  
ちゅ、ちゅ♪ 先端もお♪ おしっこの穴を舌  
でえ♪ れろれろれろれろお♪ んちゅ♪  
ちゅ、ちゅうう♪ ちゅ♪ れゝゝゝ♪ ちゅ  
ぷっ！ んちゅ♪ れろれろお♪ れろれろれろ  
れろお♪」

---

真桜

「んゝちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪ ふふ♪ お客様つ  
たら♪ まだ舐め始めたばかりなのに、もうイキ  
そうな顔をされて♪」

---

真桜

「本番はまだこれからですよ？ 次は、私のお口全  
体を味わっていたくださいますから♪」

---

真桜

「さあ♪ いきますよ？ ん、はあゝゝゝむ♪  
じゅぷっ！ んちゅ♪ じゅるる♪ じゅる！  
んぷっ！ じゅりゅりゅ♪ じゅりゅりゅりゅ  
りゅゝゝゝ♪」

---

---

真桜

「ぷはっ！ はぷっ！ ん、ん♪ れるっ！  
じゆるる♪ れゝゝろれろれろ♪ じゆる♪ ん  
ぷっ！ じゆるるゝゝ♪」

真桜

「ん、ちゆ♪ れろれろれろれろ♪ れりゅっ！  
じゅっ！ じゆるるっ！ んん！ ん、ちゆ♪  
おちんぽお♪ んちゆ！ んん！ んちゆ♪  
ぢゆるっ！ じゅっ！ んぷっ！ ん、んん！  
ん！ じゅぷっ！ じゆるるゝゝ♪」

真桜

「んじゆ♪ じゅぷぷっ！ れろれろ♪ れゝゝろ  
れろれろお♪ んちゆ♪ じゆる♪ ちゆ♪  
ちゆ、ちゆぷう♪ んちゆ♪ れろれろお♪ れ  
ゝゝろれろれろお♪」

真桜

「んぷっ！ じゆる♪ じゅりゅりゅ♪ んぷっ！  
ん♪ んちゆ♪ ちゆ、ちゆ、ちゆ、ちゆう  
♪ ぷはあ♪ はあ、はあ♪ れろれろ♪」

真桜

「ふふ♪ 我慢汁ろんろんれてきて♪ ちゆ♪ れ  
ゝゝ♪ れろれろお♪ ちゆ♪ ちゆうゝゝ♪  
んん♪ おいひいれすう♪」

真桜

「もっとお♪ 喉の奥までおちんぽ入れてえ♪ 私  
のお口全部でしゃぶり尽くしてあげますね♪」

---

真桜

「あゝむっ♪ んじゅっ！　じゅぷぷっ！　ん、ちゅ♪　じゅりゅりゅりゅ……じゅるるるるゝゝ！　んじゅっ！　じゅりゅりゅりゅっ！　れろれろれろ……れろれろれろれろれろ……じゅりゅりゅりゅゝゝ♪」

真桜

「ん！　んぷっ！　ちゅ♪　じゅるっ♪　じゅぷぷっ！　ん、ちゅ♪　れろ、れろれろ♪　れりゅっ！　ちゅ♪　ちゅぷっ！　ん、ちゅ、ちゅぷ♪　ちゅ♪　んちゅ♪」

真桜

「んん♪　おちんぽお♪　ちゅ♪　れろ、ろれろれろれろ……んん♪　ちゅ♪　チンカス、ん♪　ごく♪　ぷはっ！　はあ、んゝちゅ♪　れろれろれろれろゝゝ♪　チンカスう♪　んちゅ♪　れろ♪　れろれろ♪　ちゅ♪　んん♪　もっとお……ちゅ♪　綺麗に……れゝゝ♪　んぷっ！　んじゅっ！　じゅるるるゝゝ♪」

真桜

「おちんぽお♪　んちゅ♪　じゅる♪　じゅるるる♪　んちゅ♪　おちんぽお♪　チンカスおちんぽお♪　ん、ん、ん、ん♪　んちゅ♪　じゅぷぷっ！　じゅるじゅる♪　あゝゝむ♪　れろれろお♪　ちゅぷっ！　んちゅ♪　れゝゝろれろれろれろお♪　れろれろれろれろれろお♪」

---

真桜

「んむうっ！ ん、んん♪ じゅぶっ！ ちゅ、ちゅ♪ ちゅぶぶっ！ んじゅっ！ れろれろ♪ じゅっ！ じゅぶぶっ！ じゅりゅっ！ じゅぶっ！ ん、ん、んん！！ ぷはあっ！ はあ、はあ……」

---

真桜

「ん、れろれろお♪ んゝちゅ♪ お客様？ おちんぽ出そうですか？ おちんぽザーメンぴゅっぴゅしちゃうんですか？」

---

真桜

「でしたら、最後のお口ご奉仕は、私の頭を思いつきり掴んで、オナホのように乱暴に動かしてください♪」

---

真桜

「遠慮はいりません♪ いつも通り、オナホを使う感覚で喉奥へ♪ おちんぽで私を壊すつもりで激しくお願いします♪」

---

真桜

「さ♪ あゝゝゝ……んぶう！？ んぶっ！ じゅるっ！ じゅぶぶっ！ ぶっ、ぶぶぶぶっ！ じゅぶぶぶぶっ！ んぶっ！ 「っ！ おぼっ！ ん「っ！ んっ！ ん、ん、ん♪」

---

真桜

「んぶっ！ ん、ん！ ん、ん！ ん、ん、ん、ん、んじゅっ！ ぶじゅっ！ じゅぶぶぶぶっ！ ん「っ！ 「ほっ！ んん！ んっ！ じゅるるるっ！ じゅぶぶぶっ！ じゅぼぼっ！？」

---



---

真桜

「んん♪　じゆるる♪　じゅぶぶぶ♪　ん、んん！  
んぶんぶんぶんぶんぶんぶんぶんぶ！　んぶん  
ぶんぶんぶんぶんぶんぶう♪」

---

真桜

「じゅぶっ！　お、お、！　お、お、お、お、！　い、い  
いれしゅう♪　んじゆるる♪　んん♪　喉、おぐま  
でえ♪　じゅりゅりゅ♪　んぶっ！　れろれる♪  
じゅぶっ！　じゅじゅじゅじゅじゅうううう！　ん  
ちゅ♪　じゆるるるるる♪」

---

真桜

「んぶっ！　んじゅ！　じゆるる♪　じゅりゅじゅ  
りゅじゅりゅじゅりゅ♪　じゆるる♪　んん♪  
じゆるる♪　じゆるるるるるる♪　じゅぶっ！　ん、  
んん♪」

---

真桜

「んぶぶ♪　んん♪　じゆるる♪　ん、んん♪　お  
客様あ……♪　んぶ♪　じゆるる♪　んん♪  
とっても激ひい♪　んぶ♪　じゆるる♪　じゆる  
じゆるじゆるじゆるる♪　ん、んん♪」

---

真桜

「ぶぶっ♪　じゅぶっ！　んご！　ん、！　ん、！  
ぐぶっ！　じゆるる！　んん♪　いいれすう♪  
おちんぽお♪　イラマチオお♪　んぶうっ！　お  
ぶう！　んじゆるる！　じゅりゅりゅりゅりゅ！  
じゅぼぼぼー！」

真桜

「ん、ん！ん、ん！ん、ん、ん、ん、ん……」  
ほっ！」「ぶっ！んぶっ！や、やつ！あだ  
ま上下……！んぶう！おほ！う、うう♪  
じゅるる！じゅるる！んん！おぢんぼ膨  
らんでっ！んぶっ！じゅるるる！じゅじゅ  
じゅ！じゅぶぶぶっ！」

真桜

「ん、んぶう！じゅる♪うぶう♪ん、んん♪  
いいれすう♪このまま出しゅてえ！じゅ  
るっ！じゅりゅりゅっ！じゅぶ！おぶ！  
喉！んぶっ！壊れりゅぐらいい！んじゅ！  
んぶんぶんぶんぶんぶんぶ♪んぶん  
ぶんぶんぶんぶんぶんぶ♪」

真桜

「ん、んぶう♪喉イグう♪うぶっ！んん！  
喉まんごお！いぐう！！んぶっ！お、  
お、！お、！お、！んぶっ！イグ！ん  
じゅっ！ぢゅ！イグイグイグ！お、お、  
お、お、！喉まんごでイグう！んぶっ！ん  
ん！んごっ！イグイグイグう！！イ  
ッぎゅううううう……♪♪」

真桜

「んっぐうううううううう！！……」

真桜

「んぶうっ！？じゅるるっ！じゅる！じゅぶ  
ぶぶっ！じゅぞぞ！んぶっ！お、！お、！  
お、！おほお、！ぶぶ、！ぢゅるる！れ  
ろ、ぶ！じゅほ！んぶ♪ん、んん♪」

真桜

「んぐ！ ん！ んぶっ！ ん、んん♪ んぐ……  
ごく、ごく、ごく、ごく……んぶっ！ お「っ！  
じゅぶっ！ じゅ、んん！ ごく、ごく、ご  
く、ごく……」

真桜

「ん！ んんんん！ んぶっ！ ぶぶぶ！ ぶ  
はあっ！！ はあ、はあ、はあ、はあ……ん、  
すう……はあ……はあ、はあ、はあ……  
はあ……」

真桜

「んん、けほっ！ けほけほっ！ んじゅっ！  
じゅるるる！ ちゅぱあっ！ はあ、はあ、  
はあ、はあ……ん、ぷはあ♪ はふうう♪ お客  
様のおちんぽミルク、まだ喉奥に絡んでえ♪ ん  
ん♪ ごく、ごく……すう…… はあ……  
♪」

真桜

「ふふ♪ とっても激しくてエッチな腰使いでした  
♪ 初フェラでこんな、女を人と思わない、オナ  
ホのように使っていただけなんてえ♪ ああん  
♪ 一匹のメスとしてこの上ない喜びですう♪」

真桜

「はあ、はあ……ああ♪ このままあ♪ どうか、  
私をオナホだと思って、最後のご奉仕……おまん  
こセックスをお楽しみください♪」

トラック06

真桜 「ではお客様♪ いよいよ最後の「奉仕、おまんこセックスのお時間です♪」

真桜 「って、まあ♪ お客様ったら♪ さっきあれだけ私のお口まんこにぴゅっぴゅしたのに、もう勃起なさって♪」

真桜 「先っぽから新しいチン汁も垂れて、おまんこ欲しいよお……って言ってるみたいで、ああん♪ 可愛すぎますう♪」

真桜 「って、私も人の事言えないんですけどね♪ ほんら、分かりますか？ 私のおまんこ♪ ふふ♪ ドレスの下ですっかり発情しちゃって♪」

真桜 「さあ♪ 耳を澄ませて聞いてください♪ こゝこ♪ おまんこの厭らしい音♪」

真桜 「はあ、はあ♪ ああ♪ マン汁止まりません♪ はあ、ん、あん♪ こうやってえ、指でかき出すだけでえ♪ ん、ああん♪ 天然のローション溢れ出るんですう♪」

真桜 「そうですよ？ ん、あん♪ 私のおまんこがあ♪ おちんぽ欲しい♪ チンカスちんぽ欲しいよゝってオネダリしてるんです♪」

---

真桜

「こんなクソ雑魚マンコの分際でえ♪ お客様の素敵なおちんぽを誘惑して申し訳ありません♪  
で・す・がぁ♪ これも元をただせばお客様が悪いですよぉ？」

真桜

「お客様がぁ♪ あん♪ はぁ、んん♪ 受付嬢である私を呼び出して、こゝろなくっさいチンカスちんぽを嗅がせてゝ舐めさせてゝおちんぽミルク飲ませるからゝ♪」

真桜

「おちんぽに耐性がない私のザコザコメスまんこはぁ♪ お客様のおちんぽで……いえ、お・ち・ん・ぽ・さ・ま・にゝ♪ メロメロなんですぅ♪」

真桜

「ほゝら♪ 香ってきませんかぁ？ メスマンコの発情したフェロモンが♪ 下品にマン汁垂らしておちんぽ様に媚びてるんですぅ♪ おちんぽ様♪ おちんぽ様あゝゝって♪」

真桜

「このおまんこの洪水を止めるには、やはりおちんぽ様で栓をしていただくしかありません♪ いう事で♪」

真桜

「お客様♪ どうか♪ このチンカスおちんぽ様で、とろっとろの発情まんこ味わってくださいませ♪」

---

真桜

「子宮引っ張り出すくらい激しく突いていいですか  
らあ♪ はい♪ オナホを突き破ってダメにし  
ちゃうくらいのお気持ちで、私を……真桜のおま  
んこを犯してください♪」

真桜

「きゃん♪ お、お客様あ♪ って、はぶっ！  
ん、んん♪ んちゅ♪ ちゅ……ちゅ、ちゅ♪  
んちゅ♪ ちゅ、ちゅぶっ！ ちゅ、ちゅ♪」

真桜

「ぶはっ！ ああん♪ お客様ったらあ♪ そん  
な、急にキスするなんて……ん、ちゅ♪ ちゅ…  
…ちゅ♪ 私、嬉しくなっちゃいますよお♪」

真桜

「んちゅ♪ ちゅ♪ ちゅううううう♪ ちゅ♪ れ  
ろれろ♪ んちゅ♪ ちゅ……れうう♪ れろれ  
ろお♪ れろれろうう♪ んちゅ♪ ちゅ、  
ちゅううううう♪ ちゅ♪」

真桜

「はあ、ん♪ あ、はあうう♪ ふうううう♪ えへ  
へ♪ 大丈夫です♪ そんな興奮しなくても、お  
まんこは逃げませんから♪」

真桜

「ほうら♪ ここです♪ 私の処女おまんこは、こ  
うこっ♪」

真桜

「あ♪ きました♪ おまんこに勃起おちんぽ当  
たってえ♪」

---

真桜

「はい、そのまま♪ ん、あん♪ 腰を前に、押し込んでえ♪ んあ♪ あ、ああ♪ はいい♪ お客様あ♪ 来てえ♪ おまんこにおちんぼ様入れてください♪」

真桜

「んあ♪ あ、あ、あ……んっ！ んああああゝゝ……！」

真桜

「あひゃ！ ん、んん！ はふっ！ はあ、はあ、はあ、はあ……ん、んん♪ はふううう……え、えへへ♪ お、おちんぼ様、入っちゃいましたあ♪ えへ♪ えへへゝ♪」

真桜

「しょ、処女だったのにい、おまんこ思いつきり貰かれたのにい……ああん♪ 全然痛くないですう♪」

真桜

「はあ、はあ……んん♪ 寧ろお♪ お客様のおちんぽが想像以上に気持ち良くて、ん、あん♪ 私、本気でこのおちんぽ好きになっちゃいましたあ♪ 私を気持ちよくしてくれる、世界でたった一つのおちんぽお♪ おちんぼ様あ♪」

真桜

「んあ♪ はあ、はあ……♪ お客様あ♪ どうかお願いいたします♪ このまま、ん、ああん♪ おちんぽでゝ♪ おまんこトトロ口にしてくださいい♪」

---

---

真桜

「マンカスとマン汁で厭らしくトッピングされた下品なおまんこお♪ お客様だけに提供する処女おまんこお♪ どうかあ♪ 召し上がってくださいいい♪」

---

真桜

「ん、んああ！！んあ！あ、あああ♪あ、あ、ああ♪やあん♪あ、んああっ！これえ♪おまんこパンパン凄いいれすう♪ん、ん！ああん♪お客様あ♪セックスう♪とつてもお上手ですね♪」

---

真桜

「はあ、はあ♪おちんぽの力りが、んん♪イイ所引つかかってえ♪ん、ああ♪やあん♪ん、はあ、はあ♪んへへ♪敏感な所擦られてエッチな声出ちやいますう♪」

---

真桜

「ん、あ、あん♪やあ……お客様♪そんな、ん♪ダメですよお♪見ちやダメですう♪ん、んん！今の私、気持ちよすぎてえ♪ん、や、ああん♪やあ♪顔お♪エッチになつてますからあ♪」

---

真桜

「ん、きや、あん！はあ、はあ♪んひやあ♪やあ♪またおちんぽ激しくなっれ……あん♪やつ、あ、あ、あ、ああ♪」

---



真桜

「はあ、はあ♪ ん、やあ♪ さっきまで処女だったのにい♪ ああ♪ お客様のおちんぽでおまんこ壊れひやいましゅう♪ んん♪ 気持ちいので満たされちやいますう♪ ん、あ、あん♪」

真桜

「はあ、はあ……ん、ああ♪ だ、ダメえ♪ ん！ す、すみませんお客様あ♪ はあ、はあ……うっ♪ も、もうう♪ んああ♪ あ、あ、あ、あああ♪ おまんこお♪ おまんこイキましゅう♪ おまんこ我慢できないれしゅ♪ んん♪ おまんこイっひやいましゅう♪」

真桜

「んほおお♪ お！ お！ お！ おおお♪ ああ♪ イグうう♪ おまんこイグうう！ 下品にいきゅう♪ ガニ股で、イツ、きゅううううう……！」

真桜

「んひやああああ……！」

真桜

「んああっ！ やっ！ らめええ！ おまんこお……！ 出てましゅう……！ おまんこジューズれてましゅう……！ ん、あ、あ、あああ♪ やっ♪ らめれしゅう……♪ んん♪ ああ♪ イグうう♪ おまんこイってましゅう♪」

真桜

「ん、はあ……やっ！？ お、お客様！？ お、おほおお♪ おまんこイってましゅからああ！ おちんぽお♪ おちんぽそんなにしちや♪ あ、あ、あ、ああ♪」

---

真桜

「んああ♪ あ、あ、あ、ああん♪ やあ♪ しゅ  
ごいれすう♪ んん♪ おまんこ気持ちいいれ  
しゅう♪」

真桜

「はあ、はあ♪ ふふ♪ いいですよお？ んん♪  
おまんこオナホみたいにしてくださいいい♪  
ん、ああ♪ お客様の好きなようにい♪ いっぱ  
い味わってくださいいい♪」

真桜

「あ、あ、あ、あああ♪ 真桜のおまんこはもうお  
客様の物ですからあ♪ ん、お客様ん思うがま  
まにい♪ ああん♪ ズボズボズボしてゝ♪  
おまんこ壊しちゃって下さいいい♪」

真桜

「はいい♪ いいんですう♪ 子宮の奥もお♪ 私  
を孕ませるつもりでいっぱい♪ ん、あ、ああ  
♪ 沢山どぴゅどぴゅしてくださいいいですか  
らあ♪」

真桜

「はあ、はあ♪ んん♪ いっぱい♪ いっぱい愛  
してください♪ 私を……オナホおまんこを♪  
大好きな恋人のように♪ 自分の物だって♪ 誰  
にも渡さないんだって♪ 子宮に精子で教え込ん  
で下さい♪」

真桜

「はあ、はあ♪ はいい♪ そこお♪ んん♪ そ  
こですう♪ 赤ちゃんのお部屋あ♪ お客様しか  
入れない……んん♪ お客様の特等席ですう……  
♪ って、ひゃわあっ!？」

---

---

真桜

「んほおお♪ お、お、お、おお♪ お客様あ  
♪ ああ♪ 子宮コンコン♪ ああ♪ 激しい  
♪ 大好きピストン激しいですう♪ ん、あ、  
あ、ああ♪」

真桜

「ああ♪ そんなにされるとお……♪ ん、んふう  
♪ 子宮降りてきますう♪ 赤ちゃん作る準備出  
来ちゃいますう♪」

真桜

「ん、あ、あ、ああん♪ やあ♪ お客様あ♪  
子宮押しつぶすみたいなピストン♪ ああ♪  
痛いのに気持ち良くてえ♪ ん、やあん♪  
おまんご壊れちゃいますよお♪ ん、あ、ああん  
♪」

真桜

「はあ、はあ、はあ、はあ♪ おまんご壊されるう  
♪ おまんごお♪ ああ♪ お客様に赤ちゃん産  
めなくされちゃいますう♪」

真桜

「あ、あ、あ、ああ♪ だ、ダメエ……♪ んん♪  
気持ちよすぎて意識が♪ ん、ああ♪ おまん  
ごと一緒にイキますう♪ どこかいっひやいま  
しゅうう♪」

真桜

「ひやつ！ お、お客しやま♪ はぶっ！ ちゅ♪  
んちゅ♪ じゅる♪ じゅるるるっ！ んちゅ  
♪ れろれる♪ れろ……ん、ちゅ♪ じゅぶ  
ぷっ！ んちゅ♪ ちゅ、れろ♪ れろれる♪  
ちゅ、んちゅ！」

---

---

真桜

「ぷはっ！ はあ、ん、やつ！ あ、あん♪ やあ♪ お客様のキスう♪ んん♪ きしゅ気持ちいいれしゅう♪ ああ♪ もっとしてください♪ んゝちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪」

真桜

「んむうつ！ んちゅ♪ ちゅ！ んじゅぷっ！ れろ、れろれろ……んゝちゅ♪ じゅるっ！ じゅるる！ ちゅぷっ！ ん、んん！ ちゅ♪ ちゅぷ、ちゅ、ちゅ、ちゅ♪」

真桜

「んちゅ♪ じゅるる♪ ちゅぷっ！ ん、ちゅ♪ れろ……れろれろ……ん、れゝ……じゅる♪ じゅるるゝ♪ んちゅ♪ ちゅ、ちゅうゝゝ……ぷはあ♪ はあ、はあ♪」

真桜

「んあっ！ あ、ああん♪ やあ♪ おまんこもお♪ お口まんこもお♪ んほおお♪ きしゅうう♪ んん♪ 同時きしゅ気持ちよくってええ♪ ん、んああ♪ あ、あ、あ、ああ♪ だ、だめええ♪ またイグうう♪ おまんこお♪ おまんこイっちゃいますうう♪ ん、んん！」

真桜

「はっ！ ひやああああん……！」

真桜

「んああゝ♪ お、おおお♪ おまんこイってましゅう……♪ ん、はあ、はあ♪ ああダメ……♪ お漏らし止まらないい♪ あうう……♪ お漏らし止まらないですう……♪」

---

真桜

「あ、ああ♪ お客様あ♪ 好きですう♪ 激しく私を使ってくれるお客様あ♪ 素敵ですう♪」

真桜

「ん、ああ♪ はあ、はあ……私い♪ おまんこ専門店のオナホでしかないのにい♪ お客様に対してこんな、告白みたいな真似なんて♪ ん、んん♪ おこがましいメスですけど♪」

真桜

「でも好きです♪ チンカスちんぽで犯してくれるお客様の事が大好きになんですう♪」

真桜

「はあ、はあ……♪ んん♪ 好きい♪ 大好きです……お客様あ♪ ん、ちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪ ちゅぷっ！ んちゅ♪ ちゅ、ちゅうう♪ ちゅれゝゝろれる♪ んじゅ♪ じゅぷ♪ ちゅれろれる♪ ちゅ、ちゅゝゝ♪ ちゅ♪」

真桜

「はああ♪ んちゅ♪ れろれる♪ スキイ♪ お客様あ♪ ちゅ♪ んちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪ れろれる♪ れちゅ♪ ちゅ……ちゅ♪」

真桜

「どうかこのままあ……♪ んん♪ キスしながら犯してくださいい♪」

真桜

「体の内からも外からも、お客様の温もりに包まれながら犯されたいんです……♪」

真桜

「今まで誰にも愛された事のない、お客様だけのメスの体……どうか、他のオスが寄ってこないよう、お客様の匂いでマーキングしてください♪」

真桜 「一生お客様の所有物だって、私の子宮に分からせてください♪」

真桜 「ああ♪ お客様あゝ♪ 好きです、愛してます♪  
んゝちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪」

真桜 「じゅるる♪ れろ♪ れろれろれろろ♪ んゝ  
ちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪ れゝゝ♪ じゅるる♪  
じゅるるるゝゝ♪」

真桜 「ん、んふう♪ お、おおお♪ やあ♪ お客様あ  
♪ ああ♪ 上も下も一つに繋がってえ♪ キス  
しちゃってますうゝ♪」

真桜 「ん、はむ♪ んちゅ♪ じゅるる♪ ん、んん♪  
もっろお♪ もっろ舌らしてくだひやいい♪」

真桜 「んん♪ じゅるる♪ じゅるるるゝゝ♪ んちゅ  
♪ んん♪ れゝ♪ んぷっ！ じゅぷぷっ！  
んぷっ！ ん♪ んん♪ れゝろれろれろ  
ん、ちゅ♪ じゅるる♪ んちゅ♪」

真桜 「はあ、はあ♪ ん、ああ♪ え、えへへ♪ お客  
様ったらあ♪ ん、ああん♪ やあ♪ キスした  
途端ピクピクおちんぽ跳ねてえ♪ はあ、はあ♪  
ああ♪ キスう♪ 気に入っていただけてるん  
ですねゝ？」

真桜 「ああ♪ 嬉しい♪ んゝ……ちゅ♪ んちゅ♪  
ちゅ、ちゅ、ちゅ、ちゅ♪」

---

真桜

「はあ♪ こんな唇でいいのでしたらいくらでも  
貪ってくれていいですからあ♪ ん〜ちゅ♪  
ちゅ、ちゅ♪」

真桜

「こうやってえ♪ お店でプレイしてる時でもお♪  
ん、ああん♪ 受付にいる時でもお♪ オフの  
日でもお♪ 人前でもお♪」

真桜

「ん、あ、ああん♪ ふ、ふふふ♪ お客様ならい  
つでもキスしてくれていいですからあ♪ ああ♪  
だからこれからでもいいキスう♪ エッチな  
キスしてくださいい♪」

真桜

「大好きな人とのキスう♪ 気持ちいいキスう♪  
ん、ん〜……ちゅ♪ んちゅ♪ じゅるる♪  
はぷっ！ ん、れ〜ろれろろろ♪ ん、ちゅ♪  
じゅるる♪ ん、ちゅ〜♪ ちゅ、ちゅ♪」

真桜

「ん、あ、ああん♪ やあ♪ お、おお♪ そ  
こお♪ 子宮う♪ ん、ああ♪ チンカス塗れの  
亀頭があ♪ ああん♪ やあ♪ 子宮とキスう♪  
お、おおお♪ キスしちやってましゅう〜♪」

真桜

「はあ、ああん♪ やあ♪ 卵子早く出せって言っ  
てるみたいで〜♪ んん♪ コンコンノックう♪  
赤ちゃんのお部屋ノックされてましゅう♪ お  
まんこ虐められてますう♪」

---

「んああ♪ あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ  
♪ やあ♪ お、お客様あ♪ ん、ちゅうう♪  
ちゅ♪ んん♪ いいれすう♪ もっろお♪  
もっろコンコンしてくらひやいい♪」

「はぶっ♪ んちゅ♪ じゆるる♪ んちゅ♪  
ちゅ、ちゅ、ちゅ、ちゅううう♪ んちゅ♪  
んふふ♪ あゝむ♪ んちゅ♪ じゆる♪ んぶ  
ぶっ！ んぶっ！ じゆる、じゆるじゆる……♪  
んゝ……ちゅ♪」

「あ、ああ♪ お客様あ♪ 本当にお上手ですう♪  
ん、ああ♪ 私のおまんこの弱いところを突く  
のが、ん、ああん♪ 的確でえ……♪ ん、  
はあ、はあ……♪」

「まるで私の全てを知っているかのようなおちんぽ  
 使い♪ ああ♪ ん、あ、あ、あ、あ、あ、あ、  
 あ、あああ♪ ん、ひゃん♪ ん、ふう、ふう  
 ぅ……♪」

「ああ♪ お客様にご指名いただけたのは……  
ん、ああん♪ きつと運命で決められていたので  
しょうね……♪ ん、ああ♪ ん、あ、ああん  
♪」

「はあ、はあ♪　今まで彼氏が出来なかったのもお  
♪　セックスしてこなかったのもお♪　すべては  
今日お客様と出会う為え……♪」



真桜

「ん、あ、ああ♪ お客様あ♪ お客様お客様お客様お客様あゝ♪ ん、んんゝ……ちゅ♪ ん、ちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪」

真桜

「はあ、はあ♪ ああ♪ お客様あ♪ 好きです……大好きです♪ ああ♪ ん、あ、あ、ああ♪ 愛してますう♪ 愛しておりますう……♪」

真桜

「ん、ああ♪ もう気持ちが抑えられません……♪ 好き♪ しゅきい……♪ んゝちゅ♪ はぷっ！ んちゅ♪ じゅるる♪ じゅるるる！ んちゅ♪ じゅぷっ！ じゅるるるゝゝゝゝ……！」

真桜

「ん、ちゅ♪ れる……じゅぷっ！ んちゅ♪ じゅぷぷっ！ ん、れゝゝ♪ じゅるる♪ んちゅ♪ れろ、れろれろれろれろ♪ んちゅゝ……ちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪」

真桜

「んん♪ ぷはあ♪ はあ、はあ♪ ん、ああん♪ やあ♪ お客様あ♪ あ、あ、あ、ああ♪」

真桜

「ん、やあゝ……♪ も、もう……ま、また来るう……♪ ん、ああ♪ またおまんこお♪ 気持ちよすぎてお漏らし来ちゃいますう……♪」

真桜

「はあ、はあ……お、お客様はどうですか？ ん、あ、ああ♪ おちんぽお♪ イキそうですか？ おまんこプールでイっちゃいそうですか？」

---

真桜

「ん、はあ、はあ、はあ、はあ……♪ ああ♪ い  
いですよお♪ ん、ああ♪ このまま、ああ……  
♪ 私のおまんこお……♪ 子宮の中に出してく  
ださい……♪」

真桜

「ん、んふう……♪ 私もお♪ お客様の射精に合  
わせてイキますからあ……♪ 今度は一緒にイカ  
せてくださいい♪」

真桜

「ん、ひやうう！？ んあ！ あ、あ、あ、ああ……  
……！ お、おおお♪ お、お客様あ……！？  
ん、んひい……！ お、おおお♪」

真桜

「そんなあ♪ おちんぽ激しっ！ ん、やあ……  
……！ おお♪ お、お、お、お、お、お、  
おおお♪」

真桜

「そんな強く突かれたら、ん、ああ♪ あ、あ、  
あ、ああ……！ もうダメ……！ やっ！ あ、  
ああ……！ 我慢できましえん……！ これ、お  
漏らしい……！ まんこ緩むう……！ おおお♪  
漏らしちゃうう……！」

真桜

「はあ、はあ……！ ん、あああ……！ お、  
おおお♪ お、お客様もお♪ 一緒にい♪ ああ  
♪ イ、イってくらひゃいい……！」

---

真桜

「私もお♪ 下品にい♪ メス声出しながらイキま  
しゅからあ……!! んああ♪ あ、あ、あ、  
ああ♪ メスのお漏らししますからあ…  
……!!」

真桜

「お客様も一緒にい♪ ああ♪ おまんこにい♪  
んん♪ おまんこにいつぱいおちんぽみりゆ  
くうう……!! ああ♪ ぴゅっぴゅしてくら  
ひゃいい……!!」

真桜

「ああ……♪ お、お、お、お、お、お、  
お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、  
♪ お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、  
♪」

真桜

「んああ♪ ああ♪ 無理い……!! もう無理で  
すう……!! ああ♪ ムリムリムリムリム  
リムリムリ♪ もうイク♪ まんこイク♪ イッ  
ひやいますうう♪」

真桜

「んあああ! あ、あ、あ、ああ♪ イグう!  
イグイグイグイグイグイグイグうう!!」

真桜

「イっきゅうううう……!!??」

真桜

「ん、つきゅうううう……♪」

真桜

「は、はひい……!! んああ♪ あ、ああ♪  
出てりゅ♪ おちんぽみりゆく……♪ ん、  
ああ♪ 出てますう……♪ 注がれてますう  
♪」

---

真桜

「ん、んああ♪ あ、あひい……♪ ああ♪ お、お漏らしい♪ 精液注がれながらの潮吹きお漏らしい……♪ ああ♪ 気持ちいいれしゅう……♪ ん、ああ♪ お客様あ♪ 好き……♪ 好きですう……♪」

---

真桜

「ん、はあ、はあ……お客様あ♪ キスう♪ キスしてくらひやいい……♪ 大好きキスう……♪ 愛してるのキスう……♪」

---

真桜

「あ……♪ ん……ちゅ♪ はぶっ……んちゅ♪ ちゅ……れろ……んちゅ♪ じゅぶっ……ん、ちゅ♪ ちゅ……ちゅ♪」

---

真桜

「ん、えへへ♪ 優しいキス、嬉しいです♪ ああ♪ お客様あ……♪ 気持ちいい……♪ 好き……♪ 大好きですう……♪」

---

真桜

「ん……はあ、はあ……はふう……♪ って、えへへ……♪ すみません……ちよっと気持ちよすぎて腰が抜けてしまったみたいで……♪」

---

真桜

「ん、ん……はふっ……ああ……ダメですう……気持ちよすぎて、ん、あん♪ はあ、はあ……起き上がれませうん……」

---

真桜

「ん、そうですね……起き上がれないなら仕方ありませんよね……それなら……」

---

---

真桜

「ん、んん……んゝ……えへへ♪ お客様……♪  
まだ時間はありますから、どうかこのまま……  
ん♪ 精子が泳いでるおまんこプールであったま  
りながら、ゆっくりしていつてください♪」

真桜

「そして、もし私の事を……私のおまんこを気に  
入っていただけましたら、是非またご来店いただ  
けると……そのう、はい♪ すっごく嬉しく思っ  
ます♪」

真桜

「私はお客様だけの専属おまんこですから♪ それ  
以外の方には決してこのおまんこは味わわせま  
せんから♪」

真桜

「それに……えへへ♪ 呼んでくださればお店の外  
でもご奉仕したいので、後で連絡先も交換しま  
しょう♪」

真桜

「ん、はあ……♪ お客様……好きです……大好き  
です♪ おまんこしか取り柄のないただのメスマ  
んこですが……これからもずっと愛してください  
ね♪ ん……ちゅ♪」

---